



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2025 July to September vol. 227

京都国立博物館

だより

二〇二五年
七・八・九月号

修理完了記念 特集展示
重要文化財

釈迦堂縁起

特集展示

新収品展

特別展

宋元仏画

— 蒼海を越えた
ほとけたち



【修理完了記念 特集展示】

重要文化財 釈迦堂縁起

7月8日(火)～8月24日(日)

※会期中、巻替を行います。

前期：7月8日(火)～8月3日(日) 後期：8月5日(火)～8月24日(日)

【平成知新館2F-2.3】

この春の奈良国立博物館「超国宝」展でも紹介された、京都・清凉寺のご本尊である「三国伝来」の釈迦如来像。インドより中国を経て日本へもたらされた信仰される、きわめて貴重な仏像です。まことに名高いこの像の存在により、同寺は「嵯峨釈迦堂」とも呼ばれています。

このたび特集する「釈迦堂縁起」(重要文化財、六巻)は、その釈迦如来像の由来や靈験を語る室町時代の絵巻です。釈迦の生涯から、像の誕生と大陸での流転、そして平安時代に齋然(九三八～一〇一六)によって請来される壮大な物語を、色鮮やかに描き出しています。絵の作者と考えられる狩野派の二代・元信(一四七七～一五五九)は、水墨画由来の構図法や筆法を絵巻制作に応用することで、細密な着色を旨とするやまと絵と水墨画とを融合した新たな絵画世界を作り上げました。日本絵画史においても、その後の狩野派の発展を決定づけた作品のひとつとして高く評価されています。

「釈迦堂縁起」は、このたび朝日新聞文化財団の助成を受け、全面的な修理が令和二年度(二〇二〇)から令和四年度まで実施されました。修理によって画面の折れや亀裂といった損傷が解消され、絵の鮮やかさ・緻密さが一層引き立つようになりました。また、それだけではなく、制作背景にかかわる新見も得られたことが大きな成果といえます。

本展は修理後をはじめでの展示となる「釈迦堂縁起」を全巻通してご覧いただける貴重な機会となります。秋の「宋・元仏画」展とも深くかわる東アジア仏教の壮大な伝説であり、狩野派の重要作例でもある本作の新たな魅力を、文化財修理の重要性とともに多くの方々を知っていただきたいと思えます。

(井並林太郎)



◆釈迦が前世で兜率天にいる場面

重要文化財 釈迦堂縁起 巻第一(部分) 伝狩野元信筆 京都・清凉寺(この場面は7月8日～8月3日展示)



◆仏教の弾圧を逃れ釈迦像を運び出す場面 夜は釈迦像が僧を背負う

重要文化財 釈迦堂縁起 巻第三(部分) 伝狩野元信筆 京都・清凉寺(この場面は8月5日～24日展示)



ち巻上(部分) 掃部助久国筆 京都・真正極楽寺(真如堂)(7月8日～8月3日展示)

◆名品ギャラリー◆
絵巻展示室より

室町時代の絵巻

「釈迦堂縁起」に関連して

I.. 7月8日(火)～8月3日(日)

II.. 8月5日(火)～8月24日(日)

【平成知新館2F-1】

修理完了記念 特集展示「重要文化財 釈迦堂縁起」にあわせて、関連する室町時代の絵巻を展示いたします。近い時期に作られた縁起絵巻や、狩野派の絵巻からの影響が確かめられる作品などをご覧いただき、「釈迦堂縁起」への理解を深める機会となれば幸いです。とくに「釈迦堂縁起」の九年後につくられた「真如堂縁起」はモチーフやスタイルが大変よく似ており、直接参照された可能性も考えられ注目されます。

【特別展】

宋元仏画

―蒼海を越えたほとけたち

9月20日(土)～11月16日(日)

【平安展示室】

前期：9月20日(土)～10月19日(日)

後期：10月21日(火)～11月16日(日)

※会期中、一部の作品は右以外にも展示替えを行います。

【平成知新館】

二〇二五年の京博は、はるか海をこえて日本にもたらされた美術をテーマとした展覧会が続きます。春の特別展「大阪・関西万博開催記念 特別展 日本、美のるつぼ―異文化交流の軌跡―」(キャッチコピーは「出会いは、海を越える。」、夏の特集展示「修理完了記念 特集展示 重要文化財 釈迦堂縁起」(キャッチコピーは「仏像、海を渡る。」、そして秋を迎える本展です。副題は「蒼海を越えたほとけたち」。「蒼海」は字義のまま「蒼い海」という意味ですが、中国では古くから、果てなく広がる東の海を指す言葉として使われてきました。先人たちの思いに応え、日本に至った隣国のほとけたちが越えた蒼海の色を、コンセプトカラーとして打ち出しています。

さて、問題は正題の「宋元仏画」。聞き馴染みのない方が多いでしょう。日本の美術史研究の上で使われている言葉で、中国の宋時代から元時代にかけて制作された仏教絵画のことを指しています。この「宋元仏画」、日本の仏教美術の発展に果たした功績はとてつもなく大きいものでした。本展では、日本で大切に守り伝えられてきた宋元仏画をあつめ、その特色を紹介するとともに、日本との深い関係も紐解いていきます。

展覧会は七つの章と二つのトピックで構成されています。少し欲張りすぎたかもしれませんが、せっかくなので機会ですから、たっぷりご堪能いただければ幸いです。第一章は「宋元文化と日本」。日本人が中国からの舶載品である唐物を愛してやまなかったことはご存じでしょう。現在でも、曜変天目茶碗や龍泉窯の青磁など、美しい陶磁器に目を奪われますが、宋元時代につくられたものに対する特別な価値観は、室町時代以来、現在にも脈々とつづいています。仏画も例外ではなく、宋元仏画の圧倒的表現力は、宗教画としての充実とともに、純粋な造形美として日本人の心につよく働きかけてきました。

第二章「大陸への求法―教えをつなぐ祖師の姿」、第三章「宋代絵画の諸相―宮廷と地域社会」、第四章「牧鶴と禅林絵画」では展覧会の柱である宋元仏画を挙げてご覧いただけます。一言に仏画といっても、礼拝する仏様の姿を表す絵画だけでなく、禅宗の祖師の肖像画(頂相)や水墨人物画を含め、広く見渡したいと思えます。息をのむほど精緻な北宋の《孔雀明王像》や、日本人憧れの牧鶴の《観音猿鶴図》など、いずれも必見です。第五章「高麗仏画と宋元時代」、同時代の仏教国家・高麗の仏画を軸にとり、宋元仏画を相対的に捉えます。熱心な信仰が麗しい装飾美に結実した高麗仏画の特色とともに、宋や元との造形的なつながりにも気づくことができます。第六章「仏画の周縁―道教・マニ教とのあわい」は、ちょっと変わった視点から、仏画に入り込んだ、あるいは仏画の姿を借りた他宗教の画像を含めて、宋元仏画の多様な側面をのぞいてみます。

締めくくりは第七章「日本美術と宋元仏画」。日本美術の巨匠たちの傑作の裏に、宋元仏画の学習成果あり、ぐっと身近に感じていただけることを期待しています。さらに仏画だけでなく、仏像と経典(経絵)を特集する二つのトピック展示にもご注目ください。宋元仏画の魅力、余すことなくお伝えします。

(森橋なつみ)



国宝 無量師範像 京都・東福寺 (後期展示)



国宝 観音猿鶴図 牧谿筆 京都・大徳寺 (後期展示)



中国の二つの王朝、宋と元

宋(九六〇～一二七九)は、唐が滅びた後の分裂期である五代十国時代を終らせ、中国を再統一した国です。建国から北方の金に首都開封を陥落される靖康の変までを「北宋」、一二七〇年の臨安(杭州)への遷都以降を「南宋」と呼びます。

宋は官吏登用制度である科挙を本格的に運用し、貴族に代わって知的エリートである士大夫階級が社会を支えました。そのため学問や文学、芸術などが洗練され、非常に高度な文化レベルに到達しました。北宋時代は日本の平安時代中期から末期にあたり、東大寺僧の齋然らが経典や釈迦像など貴重な仏教文物を持ち帰ったのを皮切りに、宋を目指す僧侶たちが増えようになりました。南宋時代は日本の鎌倉時代にあたり、より多くの日本僧が訪れるようになります。彼らは国際港の寧波から上陸し、寺院や仏教聖地をめぐるながら都の杭州を訪れています。禅や喫茶(抹茶)をはじめ、日本にとって重要な仏教文化が数多く南宋から伝えられました。

元(一二七〇～一三六八)はモンゴル人によって統治された国です。初代チンギス・カンによって建国されたモンゴル帝国は、ユーラシア広域を版図とする巨大帝国を築き、南宋や高麗、日本にも迫りました。第五代皇帝のクビライは中国へ進軍し、一二七一年に国号を「元(大元ウルス)」と改め、南宋を滅ぼして中国全土の統治を実現します。大都(北京)に都をおいた元の領土は宋をはるかにしのぎ、国際色豊かで、多様な人種から優れた人材を登用し、南宋などの旧体制をうまく利用して国家を整えました。

元時代は日本の鎌倉時代中期から南北朝時代にあたり、元寇などの混乱もありましたが、情勢が落ち着くと日本から訪れる僧が増えます。この時期は禅僧が中心となって往来し、多くの文物が日本にもたらされました。



国宝 秋景冬景山水図 伝徽宗筆 京都・金地院 (前期展示)



国宝 孔雀明王像 京都・仁和寺 (前期展示)



重要文化財 枯木猿猴図 長谷川等伯筆 京都・龍泉庵 (後期展示)



重要文化財 弥勒下生变相図 李晟筆 京都・妙満寺 (前期展示)



重要文化財 観音猿鶴図 顔輝筆 京都・百遍通知恩寺 (前期展示)



重要文化財 真如堂縁起 三巻のうち

平成知新館 名品ギャラリー

- 3F-1 陶磁
 - 【日本と東洋のやきもの】
 - 7月15日(火)～8月24日(日)
 - ※7月8日(火)から7月13日(日)は閉室。
 - 3F-2 考古
 - 【飛鳥人の祈り、天平人の祈り】
 - 【日本の考古資料】
 - 7月15日(火)～8月24日(日)
 - ※7月8日(火)から7月13日(日)は閉室。
 - 2F-1 絵巻
 - 【室町時代の絵巻】
 - ―「釈迦堂縁起」に関連して―Ⅰ
 - 7月8日(火)～8月3日(日)
 - 【室町時代の絵巻】
 - ―「釈迦堂縁起」に関連して―Ⅱ
 - 8月5日(火)～8月24日(日)
- 2F-3
 - 【修理完了記念 特集展示】
 - 重要文化財 釈迦堂縁起
 - 7月8日(火)～8月24日(日)
 - 2F-4 近世絵画
 - 【妙心寺屏風】
 - 7月8日(火)～8月24日(日)
 - 2F-5 中国絵画
 - 【明清時代の道釈画】
 - 7月8日(火)～8月24日(日)
 - 1F-1 彫刻
 - 【日本古代の仏像】
 - 【不動明王・忿怒のほとけ】
 - 7月8日(火)～8月24日(日)
 - 1F-2～6
 - 【特集展示 新収品展】
 - 7月8日(火)～8月24日(日)

【特集展示】

新収品展

7月8日(火)～8月24日(日)
【平成知新館1F-2-6】

博物館の大切な事業のひとつに、文化財の収集があります。京都国立博物館では、個人の方からの篤志による貴重な作品の寄贈を受け入れたり、博物館の研究に資する重要な作品を購入するなどして、所蔵品の充実をはかっています。

今回の「新収品展」では、二〇二四年度までに京博が新たに収蔵した考古・彫刻・絵画・書跡・工芸・歴史資料などのうち、約六〇件を選んで展示いたします。そのうちのいくつかをご紹介します。

江西龍派・心田清播賛「山水図」は室町幕府に重用された相国寺の画僧周文の筆と伝わる作品です。彼は十五世紀前半の水墨画壇にその名を轟かせ、後のあらゆる漢画流派の規範となりました。真筆作品が未だ確認されていないなか、本作品は彼の存命期にその周辺で描かれたと考えられることから、極めて希少な基準作の一つとなります。

斎白石（一八六四～一九五七）の「相伴看山図草稿」は、京博所蔵の本画の下描きにあたり、本展では草稿と本画を並べて展示いたします。一見、風光明媚な情景を自由な運筆で即興的に描いたように見えますが、両作を見比べると、構図から賛に至るまで、綿密に計算されている様子がうかがえます。

狩野探幽（一六〇二～一七四）筆の「八尾狐図」は、三代将軍徳川家光が夢に見た不思議な狐を描かせたものです。家光の乳母・春日局筆と伝わる「東照大権現祝詞」には、この狐が家光の病からの回復を告げて去ったこと、家光がそれを描かせたことが記されています。こうした將軍家にまつわるエピソードも含め、歴史的意義の深い作品といえましょう。

馬の形をした土製品である「土馬」は、奈良時代の水辺に関わる祭祀において用いられたと考えられています。ピンと跳ね上がった尻尾は八世紀中頃以降の特徴です。

「白木綿地人物文様繡茶具褥」は、狩獵人物などを緻密に刺繍した煎茶用の敷物です。元々はインド製の欧州向けベッドスプレッドから仕立替えた、豊臣秀吉の陣羽織であったと伝わっています。

さまざまな作品との新たな出会いにご期待ください。（山内麻衣子）



重要美術品 山水図(部分)
江西龍派・心田清播賛 伝周文筆 京都国立博物館



八尾狐図 狩野探幽筆 京都国立博物館



土馬 奈良県出土
長谷川輝氏寄贈・京都国立博物館



白木綿地人物文様繡茶具褥
柴田芳明氏寄贈・京都国立博物館

よみもの

陶工のレシピ

郷土料理を味わうことは、楽しみの一つである。開催中の大阪・関西万博では、世界各地の料理を味わえることを期待している。印象に残った料理を再び味わいたいと、レシピを調べ、自ら材料を揃えて調理してみると、見た目には郷土料理らしい一皿が完成しても、味わいは本場とはやや異なり、「○○料理もどき」に留まることがある。それでもレシピの存在が、料理の再現性がある程度担保しているのは間違いない。使用する材料や調理法が本場の条件を満たしていないこともあり、またレシピには表現しきれない暗黙知が存在することが「もどき」となってしまう所以である。このような非言語的・経験的な知識の伝承は、日本文化における「口伝」や「秘伝」といった概念と重なり合う。

このことは、工芸品など有形文化財の製作技法にも通じる。料理におけるレシピのような記録が残されている例は稀であり、作品が古くなるほど製作に関する文書は失われやすい。そのため保存科学の分野では、非破壊調査により技法や材料を科学的に解明する試みが行われている。

たとえば、江戸時代前期に京都・仁和寺門前で作陶した陶工・野々村仁清の出土陶片が多数現存しており、彼と関係のあった尾形深省（乾山）による技法書「陶工必用」も伝来している。同書は当時の陶工技術に関する「レシピ」ともいえる貴重な資料で、その存在自体が珍しい。

郷土料理を味わうことは、楽しみの一つである。開催中の大阪・関西万博では、世界各地の料理を味わえることを期待している。印象に残った料理を再び味わいたいと、レシピを調べ、自ら材料を揃えて調理してみると、見た目には郷土料理らしい一皿が完成しても、味わいは本場とはやや異なり、「○○料理もどき」に留まることがある。それでもレシピの存在が、料理の再現性がある程度担保しているのは間違いない。使用する材料や調理法が本場の条件を満たしていないこともあり、またレシピには表現しきれない暗黙知が存在することが「もどき」となってしまう所以である。このような非言語的・経験的な知識の伝承は、日本文化における「口伝」や「秘伝」といった概念と重なり合う。

このことは、工芸品など有形文化財の製作技法にも通じる。料理におけるレシピのような記録が残されている例は稀であり、作品が古くなるほど製作に関する文書は失われやすい。そのため保存科学の分野では、非破壊調査により技法や材料を科学的に解明する試みが行われている。

たとえば、江戸時代前期に京都・仁和寺門前で作陶した陶工・野々村仁清の出土陶片が多数現存しており、彼と関係のあった尾形深省（乾山）による技法書「陶工必用」も伝来している。同書は当時の陶工技術に関する「レシピ」ともいえる貴重な資料で、その存在自体が珍しい。

御室仁清窯跡から出土した陶片の調査では、「陶工必用」の記述と陶片の比較を行った。同書には、京焼に限らず、唐津焼、伊羅保茶碗、五器（呉器）茶碗、志野焼など、他産地の陶器を模倣した「写し」に関する記述もある。これら「写し」の生産は、当時の流行品としての需要の高まりが考えられるが、本場から

京都国立博物館 上席研究員兼保存科学室長 降幡順子

ミュージアムパートナー

※令和7年6月末現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

- 「ゴールド」土屋 和之
- 株式会社 SOFTON ホールディングス
- 株式会社 俄 / 一般財団法人 ZSS&A 財団
- 「シルバー」学校法人 二本松学院
- 東レエン지니어リング株式会社
- 「ブロンズ」原田清朗 / 片山明 / 伊藤正人

キャンパスメンバーズ

※令和7年6月末現在

- 「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および教職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会等さまざまな特典を提供しています。
- 学校法人 瓜生山学園 / 追手門学院大学 / 国立大学法人 大阪大学 / 大阪大谷大学 / 大谷大学 / 学校法人 大手前学園 / 学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院 / 国立大学法人 京都大学 / 京都華頂大学 / 国立大学法人 京都工芸繊維大学 / 学校法人 京都産業大学 / 学校法人 京都女子学園 / 京都市立芸術大学 / 京都精華大学 / 京都先端科学大学 / 京都橋大学 / 京都府立大学 / 近畿大学 / 国立大学法人 神戸大学 / 四天王寺大学 / 就実大学 / 成安造形大学 / 国立大学法人 総合研究大学院大学 / 学校法人 大覚寺学園 / 帝塚山大学 / 学校法人 同志社 / 奈良大学 / 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 / 学校法人 二本松学院 / 花園大学 / 佛教大学 / 学校法人 森ノ宮医療学園 / 学校法人 立命館 / 龍谷大学

講座・イベント

【土曜講座】

7月12日(土)「飛鳥・奈良時代の仏像」

京都国立博物館主任研究員 竹下 繭子

7月19日(土)「旅をした古文書」

京都国立博物館企画室長兼美術室長 羽田 聡

7月26日(土)「釈迦堂縁起 修理と新たにわかったこと」

京都国立博物館主任研究員 井並林太郎

8月23日(土)「飛鳥人・天平人の祈りのかたち」

京都国立博物館考古室長 石田由紀子

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日9時30分より、平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

【特別展「宋元仏画—蒼海を越えたほとけたち」記念講演会】

9月27日(土)

「幻視と示現—宋元仏画の視覚表象—」

九州大学名誉教授 井手誠之輔氏

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※参加ご希望の方は、講演会3日前12時までに京都国立博物館ウェブサイト(<https://www.kyohaku.go.jp/>)よりお申し込みください。事前申し込み制、先着順(定員になり次第受付終了)。8月26日(火)10時よりウェブ申込受付開始(予定)。

【きょうはくキッズデーのお知らせ】

家族やお友だちと博物館を楽しめる、「きょうはくキッズデー」を8月9日(土)に開催します。当日は、主に小学生を対象としたワークショップ「少年少女博物館くらぶ」や、絵本作家の谷口智則さんをお招きしてライブペインティングイベントも開催します。また、お子さんと一緒に来館された方は観覧料の割引がありますので、この機会にぜひご来館ください。詳細は京都国立博物館ウェブサイト(<https://www.kyohaku.go.jp/>)をご覧ください。

これからの展覧会

◆新春特集展示 うまづくし—干支を愛でる—

12月16日(火)～令和8年(2026)1月25日(日)

◆特集展示 光琳かるたと小西家伝来尾形光琳関係資料

12月16日(火)～令和8年(2026)2月1日(日)

◆特集展示 雛まつりと人形

令和8年(2026)2月7日(土)～3月15日(日)

◆京都国立博物館の庭園を紹介する無料アプリケーション◆ 「京博庭園ナビ」

「京博庭園ナビ」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、京都国立博物館の庭園を楽しんでいただける無料のアプリケーションです。屋外展示や建物など、特定のスポットにカメラをかざすと、解説やARが表示されます。ご来館の際にぜひご利用ください。

利用可能時間：9:30～16:30

料金：無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

※館内ではフリーWi-Fiをご利用いただけます。

※パソコンでは正しく動作しません。

>詳しい利用方法はこちら

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/museum/garden-navi/>

公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X(旧Twitter)・Instagram

@KyotoNatMuseum

公式キャラクター・トラりんサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>



◆名品ギャラリーの休止予定

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー 休止期間：6月17日(火)～7月6日(日)

8月26日(火)～9月18日(木)

※上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<6月17日～9月18日>9:30～17:00

<9月20日～11月16日>9:00～17:30

*金曜日は20:00まで開館

*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】

<7月8日～8月24日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料。障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(教職員を含む)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【特別展「宋元仏画—蒼海を越えたほとけたち」】

<9月20日～11月16日>

一般2000円(1800円)、大学生1200円(1000円)、

高校生700円(500円)

*()内は団体20名以上。中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(教職員を含む)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

【庭園のみ開館期間】

<6月17日～7月6日><8月26日～9月18日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料。障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(教職員を含む)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方は、庭園ガイド冊子がございます。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

9月19日(金)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂前下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

*【博物館より】を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は140円、長3封筒は110円)切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

TEL.075-525-2473 (テレホンサービス)

発行日 令和7年7月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

